

麻酔科専門医研修プログラム名	大分大学医学部附属病院麻酔科専門医研修プログラム	
連絡先	TEL	097-586-5943
	FAX	097-586-5949
	e-mail	sigekiyo@oita-u.ac.jp
	担当者名	松本 重清
プログラム責任者 氏名	松本 重清	
研修プログラム 病院群 *病院群に所属する全施設名をご記入ください。	責任基幹施設	大分大学医学部附属病院
	基幹研修施設	大分県立病院，別府医療センター
	関連研修施設	大分赤十字病院，大分医療センター，大分市医師会立アルメイダ病院，豊後大野市民病院，大分岡病院
定員	10 人	
プログラムの概要と特徴	大分県内の主要な総合病院と連携し，各施設の特色を生かすことで，集学的医療ができる専門医を養成する．手術麻酔のみならず，集中治療，ペインクリニックの専門性も盛り込み，周術期をトータルでサポートできる専門医育成が可能．	
プログラムの運営方針	効果的に知識，技術を習得できるプロセスを構築し，各施設と連携しながら，その達成度を定期的に確認する．必要な場合には修正を随時加える．	

2016年度 大分大学医学部附属病院麻酔科専門医研修プログラム

1. プログラムの概要と特徴

責任基幹施設である大分大学医学部附属病院，基幹研修施設である大分県立病院，別府医療センター，関連研修施設の大分赤十字病院，大分医療センター，大分市医師会立アルメイダ病院，豊後大野市民病院，大分岡病院において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する．

2. プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち最低6ヶ月は，責任基幹施設で研修を行う．
- 最低3ヶ月は，基幹研修施設で研修を行う．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．
- 定期的にプログラムの達成度を各施設と確認する機会を設け，必要ならば修正を随時行う．

3. 研修施設の指導体制

1) 責任基幹施設

大分大学医学部附属病院

プログラム責任者：松本重清

指導医：松本重清

新宮千尋

専門医：北野敬明

奥田健太郎

後藤孝治

日高正剛

内野哲哉

安田則久

山本俊介

古賀寛教

安部隆国
小山淑正
椎原啓輔
大地嘉史
甲斐真也
荻原洋二郎
牧野剛典
河野直美
中野孝美

2) 基幹研修施設

大分県立病院

研修プログラム管理者：宇野太啓

指導医：油布克己

木田景子

専門医：宇野太啓

藤田和也

局隆夫

別府医療センター

研修プログラム管理者：大石一成

専門医：大石一成

古賀聡子

3) 関連研修施設

大分赤十字病院

研修実施責任者：松本浩司

指導医：松本浩司

専門医：蔭亮

大分医療センター

研修実施責任者：岩本亜津子

指導医：岩本亜津子

専門医：北佳奈子

大分市医師会立アルメイダ病院

研修実施責任者：岩坂日出男

指導医：岩坂日出男

専門医：田原里美

豊後大野市民病院

研修実施責任者：佐藤俊秀

専門医：佐藤俊秀

大分岡病院

研修実施責任者：帆足修一

専門医：帆足修一

本プログラムにおける前年度症例合計

	本プログラム分症例数
小児（6歳未満）の麻酔	686症例
帝王切開術の麻酔	259症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	518症例
胸部外科手術の麻酔	614 症例
脳神経外科手術の麻酔	252症例

4. 本プログラムの研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を实践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣

4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標1 基本知識

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

1) 総論：

- a) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している。
- b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる。

2) 生理学：各臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。

3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。特に麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上的効用と影響について理解している。

4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

5) 麻酔管理各論：様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる。

6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。

7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる。

8) ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる。

目標2 診療技術

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

1) 基本手技ガイドラインにある基本手技について，定められたコース目標に到達している。

目標3 マネジメント

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の命をたすけることができる。

1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。

2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種を巻き込み、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4 医療倫理，医療安全

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

1) 指導担当する医師とともにon the job training環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。

2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。

3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。

4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標5 生涯教育

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。

2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。

3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。

4) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③経験目標

研修期間中に手術麻酔, 集中治療, ペインクリニックの十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え, 下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。ただし, 帝王切開手術, 胸部外科手術,

脳神経外科手術に関しては、一症例の担当医は1人、小児と心臓血管手術については一症例の担当医は2人までとする。

- | | |
|----------------------------|------|
| ・小児（6歳未満）の麻酔 | 25症例 |
| ・帝王切開術の麻酔 | 10症例 |
| ・心臓血管外科の麻酔
（胸部大動脈手術を含む） | 25症例 |
| ・胸部外科手術の麻酔 | 25症例 |
| ・脳神経外科手術の麻酔 | 25症例 |

7. 各施設における到達目標と評価項目

各施設における研修カリキュラムに沿って、各参加施設において、それぞれの専攻医に対し年次毎の指導を行い、その結果を別表の到達目標評価表を用いて到達目標の達成度を評価する。

大分大学医学部附属病院 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力，問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標1 基本知識

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

- 1) 総論：
 - a) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している。
 - b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる。
- 2) 生理学：各臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。
- 3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している。
- 4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる
- 5) 麻酔管理各論：様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる。
- 6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。
- 7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる。救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる。

8) ペインクリニック：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる。

目標2 診療技術

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

1) 基本手技ガイドラインにある基本手技について，定められたコース目標に到達している。

目標3 マネジメント

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる。

1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている。

2) 医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4 医療倫理，医療安全

医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める。

1) 指導担当する医師とともにon the job training環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる。

2) 他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる。

3) 麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。

4) 初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる。

目標5 生涯教育

医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，

統計，研究計画などについて理解している。

2) 院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる。

3) 学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる。

4) 臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。ただし，帝王切開手術，胸部外科手術，脳神経外科手術に関しては，一症例の担当医は1人，小児と心臓血管手術については一症例の担当医は2人までとする。

大分県立病院 研修カリキュラム到達目標

当院は明治13年に「大分県病院兼医学校」として新設されて以来、132年の歴史があります。現在の地には平成4年に新築移転しました。一般病床は566床です。救命救急センターを有し、ドクターヘリの受け入れもしています。また、総合周産期母子医療センターも開設しており、新生児手術を含む小児外科手術が多いのが当院の特徴です。手術室に隣接して4床のICUがあり、主に心臓・血管外科、呼吸器外科、消化器外科の術後管理を行っています。新生児から超高齢者まで、幅広い年齢層の手術麻酔を研修したいと考えているのなら、当院麻酔科は最適だと言えるでしょう。

①一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標1 基本知識

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

- 1) 総論：
- 2) 生理学：各臓器の生理・病態生理、機能、評価・検査、麻酔の影響などについて理解している。
- 3) 薬理学：薬力学、薬物動態を理解している。麻酔関連薬物について作用機序、代謝、臨床上の効用と影響について理解している。
- 4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち、実践できる
- 5) 麻酔管理各論：様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。
- 6) 術後管理：術後回復とその評価、術後の合併症とその対応に関して理解し、実践で

きる。

7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し、実践できる。救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる。

目標2 診療技術

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

1) 基本手技ガイドラインにある基本手技について，定められたコース目標に到達している。

目標3 マネジメント

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる。

1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている。

2) 医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4 医療倫理，医療安全

医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

1) 指導担当する医師とともにon the job training環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる。

2) 他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる。

3) 麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。

4) 初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる。

目標5 生涯教育

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。
- 3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 4) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③経験目標

研修期間中に手術麻酔, 集中治療の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え, 下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。ただし, 帝王切開手術, 胸部外科手術, 脳神経外科手術に関しては, 一症例の担当医は1人, 小児と心臓血管手術については一症例の担当医は2人までとする。

- | | |
|----------------------------|------|
| ・小児（6歳未満）の麻酔 | 25症例 |
| ・帝王切開術の麻酔 | 10症例 |
| ・心臓血管外科の麻酔
（胸部大動脈手術を含む） | 25症例 |
| ・胸部外科手術の麻酔 | 25症例 |
| ・脳神経外科手術の麻酔 | 25症例 |

別府医療センター 研修カリキュラム到達目標

当院の麻酔科の構成員は現在のところ、麻酔専門医2人、麻酔認定医2人の計4人です。平成25年度における麻酔科管理手術症例数は1894例/年で、内300例程度が緊急手術となっています。表1に手術部位別の統計、表2に麻酔法別の統計を示します。

表1 手術部位別統計(平成25年)

手術部位	症例数
脳神経・脳血管	54
胸腔・縦隔	51
心臓・血管	43
開胸+開腹	11
上腹部内臓	174
下腹部内臓	583
帝王切開	97
頭頸部・咽喉頭	162
胸壁・腹壁・会陰	199
脊椎	78
股関節・四肢(含:末梢血管)	434
検査・手術室外	1
その他	7
計	1894

表2 麻酔法別統計(平成25年)

麻酔法	症例数
全身麻酔(吸入)	882
全身麻酔(TIVA)	264
全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	392
全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	1
脊麻硬麻併用麻酔(CSEA)	141
硬膜外麻酔のみ	1
脊椎麻酔のみ	207
その他	6
計	1894

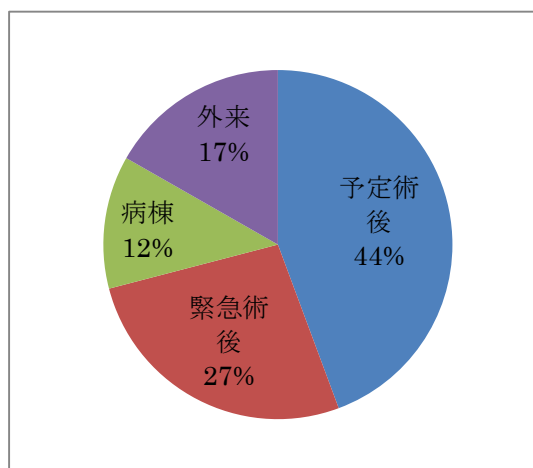
表1、2に示す様にあらゆる科の手術の麻酔と様々な麻酔法を研修できます。小児麻酔に関しては独立した小児外科はありませんが、消化器外科、耳鼻科、整形外科の外傷例等で6歳未満の症例が34例ありました。

特定集中治療室を運営し、術後患者のみならず、病棟や外来の重症患者の全身管理に携わっています。平成25年度のICU入室患者数は406人で、ICU入室形態を図に示します。

図. ICU入室形態

入室患者のうち半数以上は予定術後以外の患者であり、外傷、消化管緊急手術後、呼吸不全、心血管障害、脳血管障害、敗血症、薬物中毒などさまざまな病態の管理を行っています。

①一般目標



安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標1 基本知識

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

- 1) 総論：
- 2) 生理学：各臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。
- 3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している。
- 4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる
- 5) 麻酔管理各論：様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる。
- 6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。
- 7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる。救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる。

目標2 診療技術

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し、臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

- 1) 基本手技ガイドラインにある基本手技について，定められたコース目標に到達している。

目標3 マネジメント

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の命を助けることができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種を巻き込み、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4 医療倫理, 医療安全

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともにon the job training環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標5 生涯教育

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。
- 3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 4) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③経験目標

研修期間中に手術麻酔, 集中治療の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻

酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。ただし、帝王切開手術，胸部外科手術，脳神経外科手術に関しては，一症例の担当医は1人，小児と心臓血管手術については一症例の担当医は2人までとする。

- | | |
|----------------------------|------|
| ・小児（6歳未満）の麻酔 | 25症例 |
| ・帝王切開術の麻酔 | 10症例 |
| ・心臓血管外科の麻酔
（胸部大動脈手術を含む） | 25症例 |
| ・胸部外科手術の麻酔 | 25症例 |
| ・脳神経外科手術の麻酔 | 25症例 |

大分赤十字病院 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

当病院の目的とすることは、安全で質の高い周術期医療を提供し、国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる、麻酔科および関連分野の診療を実践する専門医を育成することである。

②個別目標

目標1 基本知識

当病院で研修することで、麻酔科診療に必要な基本知識を習得し、臨床応用が可能となる。具体的には公益法人日本麻酔学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

目標2 診療技術

当病院で研修することで、麻酔科診療に必要な基本手技に習熟し、臨床応用が可能となる。具体的には公益法人日本麻酔学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

目標3 マネジメント

当病院で研修することで、麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することとなり、そのことで患者の命を助けることが可能となる。

目標4 医療倫理, 医療安全

当病院で研修することで、医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけることが可能となり、医療安全についての理解を深める。

目標5 生涯教育

当病院で研修することで、医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成するようになる。

③経験目標

当病院での研修期間中に手術麻酔の十分な臨床経験を積み、通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、胸部外科手術の特殊麻酔を

担当医として経験することが可能である。

大分医療センター 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し、国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標1（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。

- 1) 総論：
 - a) 麻酔科医の役割と社会的な意義、医学や麻酔の歴史について理解している。
 - b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率、リスクの種類、安全指針、医療の質向上。手術室の安全管理、環境整備について理解し、実践できる。
- 2) 生理学：生理・病態生理、機能、評価・検査、麻酔の影響について理解している。
- 3) 薬理学：薬力学、薬物動態を理解している。
- 4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち、実践できる
 - a) 術前評価：患者因子の評価、術前検査、術前の合併症対策について理解している。
 - b) 麻酔器、モニターについての理解。
 - c) 気道管理：気道の解剖、評価、困難症例への対応などを理解し、実践できる。
 - d) 輸液・輸血療法：種類、適応、保存、合併症、緊急時対応を理解し、実践ができる。
 - e) 硬膜外麻酔：適応、禁忌、解剖、手順、作用機序、合併症を理解し、実践ができる。
 - f) 神経ブロック：適応、禁忌、解剖、手順、作用機序、合併症を理解し、実践ができる。
- 5) 麻酔管理各論：各科の手術それぞれの特性と留意点を理解し、実践ができる。
- 6) 術後管理：術後回復とその評価、術後の合併症とその対応に関して理解し、実践できる。

目標2（診療技術）麻酔科診療に必要な基本手技に習熟し、臨床応用できる。

目標3（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践する。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持つ

ている。

2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種を巻き込み、統率することができる。

目標 4 (医療倫理, 医療安全) 医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

目標 5 (生涯教育) 生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

③経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療の症例を十分量経験する。

大分市医師会立アルメイダ病院 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い麻酔科診療およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。

②個別目標

目標 1（基本知識）麻酔科診療に必要な知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

1) 総論：

- c) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史
- d) 麻酔の安全と質の向上

2) 生理学

3) 薬理学

4) 麻酔管理総論

5) 麻酔管理各論：

腹部外科、腹腔鏡下手術、胸部外科、心臓血管外科、小児外科、脳神経外科、
整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、外傷患者、熱傷患者

6) 術後管理

7) 集中治療

目標 2（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し、臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

1) 基本手技ガイドラインにある基本手技について、定められたコース目標に到達している。

目標 3（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の命を助けることができる。

目標 4（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

目標 5（生涯教育）医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向

上心を醸成する。

③経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特種麻酔を担当医として経験する。

- ・小児（6歳未満）の麻酔
- ・胸部外科手術の麻酔
- ・脳神経外科手術の麻酔

豊後大野市民病院 研修カリキュラム到達目標

当院の使命は、地域医療の中核として住民の健康増進と疾病予防に尽すことである。麻酔科医は年間 500 件以上の手術麻酔管理に主力を注ぐほか、週 2 日のペイン外来、手術室運営、救急診療統括、人工呼吸器管理、医療ガス管理、災害対策、医療安全など、その任務は多岐にわたる。これら診療と活動を通し、麻酔科医に必要な質の高い周術期管理を習得するだけでなく、視野の広い臨床医として成長することを、臨床研修の目標としている。

①一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の 4 つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標 1 基本知識

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

- 1) 総論：
- 2) 生理学：各臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。
- 3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している。
- 4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる
- 5) 麻酔管理各論：様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる。
- 6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。

目標2 診療技術

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し、臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

1) 基本手技ガイドラインにある基本手技について、定められたコース目標に到達している。

目標3 マネジメント

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の命を助けることができる。

1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。

2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種を巻き込み、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4 医療倫理, 医療安全

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

1) 指導担当する医師とともにon the job training環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。

2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。

3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。

4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標5 生涯教育

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。

2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し,

積極的に討論に参加できる。

3) 学術集会や学術出版物に、症例報告や研究成果の発表をすることができる。

4) 临床上の疑問に関して、指導医に尋ねることはもとより、自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③経験目標

研修期間中に手術麻酔の十分な臨床経験を積む。

大分岡病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康に寄与できる、麻酔科の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 麻酔科領域および麻酔科関連領域の専門知識と技術
- 2) 臨床現場における適切な臨床的判断能力・問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度
- 4) 生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 個別目標

目標 1 (基本知識) 麻酔科診療に必要な知識を習得し臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

目標 2 (診療技術) 麻酔科診療に必要な基本手技に習熟し臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

目標 3 (マネジメント) 麻酔科専門医として臨床現場での必要な役割を実践する。

- 1) 周術期の予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術・判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして統率力をもって、周術期の変化する事象に対応することができる。

目標 4 (医療倫理、医療安全) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

目標 5 (生涯教育) 医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・伝達麻酔の症例経験をする。また当院の特徴として成人心臓麻酔症例や小児口唇・口蓋裂の麻酔症例、創傷ケア関連の麻酔症例、腹腔鏡下消化器外科麻酔症例が比較的豊富でそれらの麻酔を担当医として経験する。